

「症例から学ぶ栄養管理講座 宮澤SCHOOL」開講！ 2018年度診療報酬・介護報酬 同時改定から考える栄養経営の重要性



宮澤代表理事

管理栄養士が現場で活躍するため、臨床に加えて経営や医療制度の知識の補強を目指す「症例から学ぶ栄養管理講座 宮澤SCHOOL」(主催：株式会社日本医療企画)が4月21日(土)、都内で開講した。当協会の宮澤靖代表理事が、「治療成績向上に貢献できる栄養部門の構築と運営の仕方」をテーマに講義を行い、47人が聴講。全5時間にわたる講義のうち、栄養経営士に特に参考になりそうな診療報酬・介護報酬同時改定について語った内容を要約して紹介する。

栄養経営士は現場でアウトカムを創出し日本の医療・介護への貢献を！

管理栄養士が現場で活躍するため、臨床に加えて経営や医療制度の知識の補強を目指す「症例から学ぶ栄養管理講座 宮澤SCHOOL」(主催：株式会社日本医療企画)が4月21日(土)、都内で開講した。当協会の宮澤靖代表理事が、「治療成績向上に貢献できる栄養部門の構築と運営の仕方」をテーマに講義を行い、47人が聴講。全5時間にわたる講義のうち、栄養経営士に特に参考になりそうな診療報酬・介護報酬同時改定について語った内容を要約して紹介する。

医療の質向上を示すデータの蓄積を

2018年度診療報酬・介護報酬同時改定が行われたばかりですが、管理栄養士の皆さんには、2020年度以降の改定も視野に入れた仕事をしていただきたいと思っています。

2018年度診療報酬改定で、入院時支援加算(200点、退院時1回)が新設されました。入院中における看護・栄養管理等の療養支援計画を立て、患者や家族らと共有すると算定できるというものです。支援する専門職の規定は特にないので、看護師が行うケースが多いかもしれませんが、では、管理栄養士

が入院時支援で存在感を発揮するにはどうすればよいのでしょうか。有効な方法は、「管理栄養士が介入すると、患者の状況がよくなる」というアウトカムを積み重ね、蓄積されたデータを提示していくことです。これが管理栄養士への評価につながります。

入退院支援への積極的な関与を

私が臨床栄養部部長を務める社会医療法人近森会近森病院(512床)では、「入退院センター」を2016年に開設し、管理栄養士を介入させています。同センターでは入院する人から病歴等を聞いたり、退院後に支援を要する人や転院する人への早期介入等を行っています。

しかし、同センターの業務単体で上げられる収益はそれほど多く

ありません。そのため、センター開設にあたっては費用対効果において疑問視されていました。

そこで私は、入院患者全員が状態のチェックを済ませてから病棟に入るため、病棟の看護師や管理栄養士が効率的な業務を行うことが可能になることを強調しました。実際に、現在病棟の管理栄養士が上げる収益は数十万円にも上っています。

医療の質向上と、勤務施設の長期的な収益の向上というアウトカム。これを出せるように、管理栄養士の皆さんには、自身の仕事に組織にどう貢献できるかを考えられるようになっていただきたいと思っています。

DPCC制度を理解し病棟業務を行う

では、病院勤務の管理栄養士が病院経営全体を見据え、利益を上げていくにはどうしたらよいのでしょうか。まずは、DPCCへの理解が必要だと考えます。

DPCCでは、包括部分と出来高部分があります。包括部分では投薬・レントゲン・検査・入院日数・注射等の点数が定額払いで算定されます。したがって、包括部分のムダを減らし、出来高部分を取りこぼさないようにするという意識が必要です。

絶食時の輸液を例に挙げましょう。輸液は包括部分に入るため、不要な絶食はコストになってしまいます。

反対に、食事のマネジメントを適切に行い、良好な栄養状態を保てば免疫力も上がるので、抗菌薬の投与が不要になります。結果としてコストが減り、包括外の入院時食事療

一般社団法人 日本栄養経営実践協会 主催

10年後も生き残れる管理栄養士を目指そう！

第6回
「栄養経営士」
資格認定試験

2018年6月10日(日)

■受験料：8,000円(税込)
■試験会場(予定)：札幌・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪・福岡
■受験資格：管理栄養士(実務経験2年以上)かつ「栄養経営士」資格認定基礎講習修了者

「栄養経営士」資格認定基礎講習はDVD視聴による受講も可能です！

3枚組・特典映像
「近森病院に学ぶ実践マネジメントのすべて」付き

くわしくは

栄養経営士

検索



図1 病院給食委託業者の変更理由

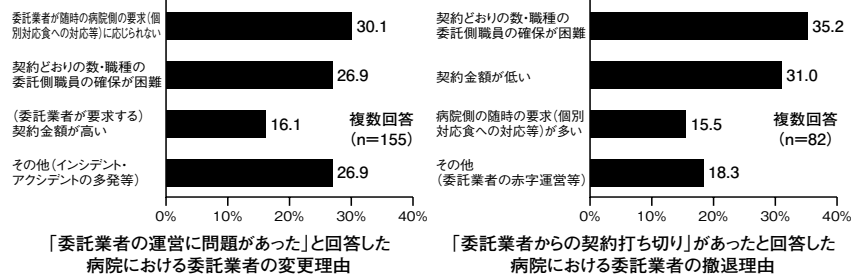


図2 病院側管理栄養士による委託業務のフォローと影響

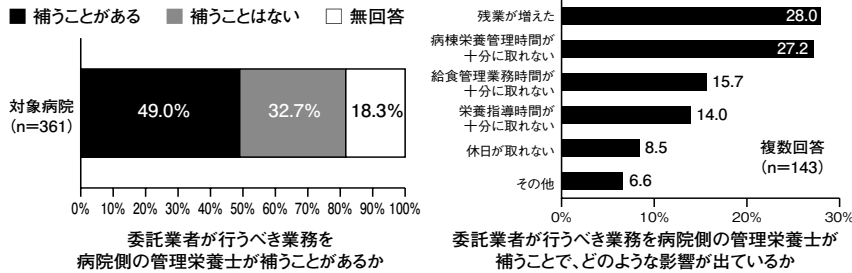
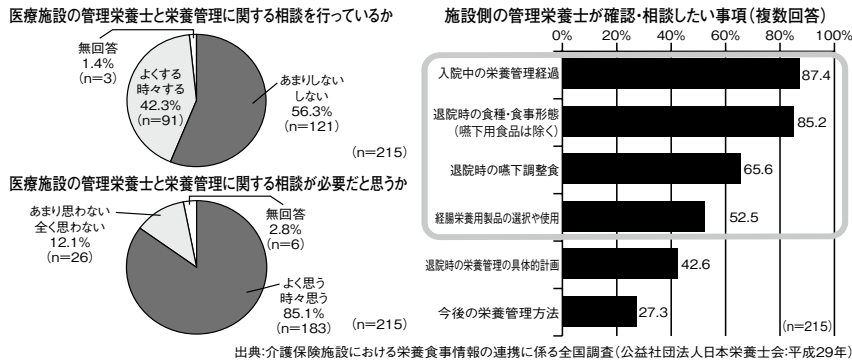


図3 医療施設の管理栄養士との相談状況



(図3、日本栄養士会)という調査資料が使われ、調査によると、「医療施設の管理栄養士と栄養管理に関する相談が必要だ」と答えた高齢者福祉施設および介護老人保健施設の管理栄養士は約85%でした。

た。一方で、「医療施設の管理栄養士と栄養管理の相談を行っている」と回答した管理栄養士は全体の4割強にとどまりました。相談したい内容としては、「入院中の栄養管理経過」「退院時の食事形態」という回答が多くありました。管理栄養士の皆さんには入院退院支援に積極的に携わり、情報共有に努めていただきたいと思います。

現状では医療・介護の円滑な連携は実現できていません。しかし、入院退院時の管理栄養士の介入で病院と施設との連携が進み、施設入所者の再入院率を下げ重症化を防いだというデータが集まれば、管理栄養士の業務への評価につながります。介護施設が看取りを含めたケアの場になりつつある現在、施設職員にも高度な医療知識が求められるようになっていきます。一方、医療機関の管理栄養士も、介護現場でどのような情報が必要とされているのかを考え、情報共有に努めることが求められています。

養費の収益は上がりません。こうしたシステムへの理解が、DPC病院に勤務する管理栄養士の間でもなかなか進んでいないように感じます。DPCの仕組みを踏まえ、日々の業務に取り組むことで、患者さんの状態がよくなり、収益も高まるという好循環が期待できるようなのです。

業者との付き合い方を例に考えてみましょう。公益社団法人日本栄養士会の調査「病院給食委託業者の変更理由」(図1)によると、病院が委託業者を変更する理由は「委託業者が要求に応じられない」が最多でした。委託業者は営利企業なので、正当な利益なしに動かないのは当然です。過大な要求をしていないか、見直してみてください。

また、日本栄養士会の「委託業務のフォローと影響」(図2)と「部分委託」は経営的にも損失を招きます。管理栄養士が厨房で委託業者と一緒に業務を行っても、加算は一切付かないうえ、病棟業務が手薄になるという弊害があるからです。無益な業務に労力を割くのではなく、安心して全面委託ができる業者に給食を任せ、専門知識を活かして病棟業務に集中する。患者さんの状態を良好に保ち、結果として収益の向上も目指すという視点が必要ではないでしょうか。

専門知識を活かし、医介の円滑な連携を中央社会保険医療協議会の介護保険部会で、「医療施設の管理栄養士との相談状況」(図3、日本栄養士会)という調査資料が使われ、調査によると、「医療施設の管理栄養士と栄養管理に関する相談が必要だ」と答えた高齢者福祉施設および介護老人保健施設の管理栄養士は約85%でした。

現状では医療・介護の円滑な連携は実現できていません。しかし、入院退院時の管理栄養士の介入で病院と施設との連携が進み、施設入所者の再入院率を下げ重症化を防いだというデータが集まれば、管理栄養士の業務への評価につながります。介護施設が看取りを含めたケアの場になりつつある現在、施設職員にも高度な医療知識が求められるようになっていきます。一方、医療機関の管理栄養士も、介護現場でどのような情報が必要とされているのかを考え、情報共有に努めることが求められています。

現状では医療・介護の円滑な連携は実現できていません。しかし、入院退院時の管理栄養士の介入で病院と施設との連携が進み、施設入所者の再入院率を下げ重症化を防いだというデータが集まれば、管理栄養士の業務への評価につながります。介護施設が看取りを含めたケアの場になりつつある現在、施設職員にも高度な医療知識が求められるようになっていきます。一方、医療機関の管理栄養士も、介護現場でどのような情報が必要とされているのかを考え、情報共有に努めることが求められています。

「栄養経営士」資格認定基礎講習

資格認定試験の受験前に、「栄養経営」という考え方を理解するために受講いただく講習です。本講習の受講が、栄養経営士資格認定試験の受験要件となります。

DVD視聴による受講も可能！
☆3枚組・特典映像付き☆

栄養経営士も会員価格で聴講できます！

【こんな方におすすめ】

- ・DVD受講だったので、会場受講をしてみたい
- ・栄養経営士の方向性を、改めて確認したい
- ・栄養経営士として、もう一度、話を聞きたい ……

講習内容

オリエンテーション。
「栄養経営士」に必要な能力について

1. 院内・施設内における栄養部門の現状分析
2. 目標設定能力と達成に向けた実践的アプローチ
3. 業務の質を高めるためのアウトカム分析
4. 「栄養経営士」に求められる教育と人事能力
5. 適材適所の組織マネジメント
6. 病能の把握能力

- 講師：宮澤 靖 代表理事ほか
- 受講料(会場、DVDとも)：8,000円(税込)
- 時間：10:00～17:00(予定)

2018年度 日程決定！

会場	日程
大阪	8月5日(日)
仙台	8月18日(土)
東京	8月19日(日)
福岡	9月2日(日)

栄養経営士必読！重症化予防時代のリーディングマガジン

「地域栄養経営」創刊！



厨房から病棟へ——、ここ数年で管理栄養士の活躍の場は大きく変化しました。

そして今、在宅高齢者の増加を背景に、管理栄養士が地域全体を視野に入れて栄養指導などを行うことが求められるようになってきています。

このような状況を踏まえ、6月に新雑誌「地域栄養経営」(年4回発行、日本医療企画刊)が創刊されます。

そこで、「地域栄養経営」編集部に、創刊意図や中心テーマについてうかがいました。

管理栄養士は 予防のキーパーソン

誤嚥性肺炎で入退院を繰り返したり、糖尿病の重症化によって人工透析が必要な高齢者を減らしていくために、国は重症化予防への取り組みを始めています。在宅を視野に入れた取り組みの中心は「地域」であり、栄養指導の専門知識を持つ管理栄養士は、キーパーソンになると考えられています。

栄養の重要性が認識されるようになった現在、「誤嚥性肺炎、糖尿

6月1日創刊
(年4回発行)

【仕様】 A4判、64頁
【定価】 800円+税
【発行・発売】 株式会社日本医療企画

病、そしてフレイルの重症化予防のための栄養ケアの実践」が、管理栄養士の新たな使命として位置付けられているのです。

地域栄養経営で 重症化予防を担う

新雑誌では、「地域の重症化予防を栄養ケアで担っていくこと」を「地域栄養経営」と捉えています。

現在、栄養ケアを基軸とした、地域におけるセーフティネットの構築が火急の課題となつていますが、そのために、急性期病院から回復期、慢性期、そして在宅へと続く地域栄養の流れの中で活躍する管理栄養士をはじめ、生活習慣病予防や介護予防に取り組みする

専門職、介護職員、そのほか薬局やドラッグストアなども連携することで、シームレスな栄養ケアの提供体制を築いていくことが必要です。

新雑誌では、そのために必要な視点や具体的な手法について、掘り下げて考えていく予定です。

「地域栄養経営」創刊号の主な内容

特集
管理栄養士よ、街へ出よう！
“在宅時代”に求められる栄養指導

創刊号スペシャル対談
今こそ地域を語ろう
足で創る、口が拓く、寝たきり知らずな街づくり
秋山和宏
(東葛クリニック病院 副院長)
近藤克則
(千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授)

Leader's Interview
The Changing Person～在宅を決意した私～
頼りにしてくれる人がいる
だから訪問で必ずその期待に応える
米山久美子
(栄養ケア・ステーション eatcoco代表／在宅訪問管理栄養士)

在宅ミールをご紹介！
栄養士に学ぶサポートレシピ
監修 中村育子(福岡クリニック在宅部 栄養課 課長)

The Opinion「地域と栄養」
老いても足で歩くまち、
老いても口から食べるまち
丸山道生(田無病院 院長)

地域を知る、明日が見える
地域栄養経営講座

事例報告
嚥下調整食の地域連携の実践
～横須賀地区嚥下調整食分類早見集の作成～
徳永美希
(横須賀地区栄養士連絡協議会)

地域栄養のトップランナー 薬樹株式会社
「健ナビ薬局」の創設
～なぜいま薬局に管理栄養士なのか～

【ご注文・お問い合わせ】
株式会社日本医療企画 TEL:03-3256-7495
<http://www.jmp.co.jp/inm/>

地域の専門家をつなぐ 新雑誌の役割

そこで本誌では、取り上げるべきテーマをいくつか設定しました。

まずは、地域高齢者の誤嚥性肺炎による入院を予防するために、栄養ケアのアプローチを考えること。そして、地域高齢者の慢性疾患の三次予防に努め、透析導入などの低減につながるための地域栄養経営のあり方についても模索していきます。

また、地域栄養経営を実現するために必要

な情報を発信するだけでなく、それに取り組み専門職、企業、ドラッグストアなどをつなぐ場の提供も検討していきます。

栄養経営士の皆さんは、地域での「重症化予防のための栄養ケアの実践を担うリーダー的存在になり得る方々だと思っています。地域にも活躍の場を広げ、管理栄養士としてレベルアップするために役立つ誌面作りに努めてまいりますので、ぜひ、新雑誌「地域栄養経営」に期待ください！

経営士同士で連携を！ 医療経営士・介護福祉経営士・栄養経営士の合同イベント

医療・介護・栄養でイノベーションを起こすための石井ゼミin東北

参加者に大好評、全国の会場で満員となっている“石井ゼミ”が、今年も東北で開催されます。イノベーションを起こすことのできる人材になるために必要な知識・スキルの習得と共に、医療経営士や介護福祉経営士との新たな東北ネットワークづくりの場としてご活用ください。

第1回

7月14日(土)
14:00～17:00

「気づき、解決する力を養う」

- ・課題解決のためのロジカルシンキング
- ・課題抽出と改善のためのデータ活用

第2回

9月1日(土)
14:00～17:00

「伝える力を身につける」

- ・実行力を高めるコミュニケーション
- ・相手を納得させるプレゼンテーション

第3回

11月10日(土)
14:00～17:00

「未来を読む力を育む」

- ・医療・介護分野に関する政策を理解する
(骨太の方針、Society 5.0、保健医療2035、2018年度診療報酬・介護報酬同時改定そのほか)
- ・まとめ

講師：石井富美氏

(多摩大学医療・介護ソリューション研究所フェロー)

会場：PARM-CITY131 貸会議室

(仙台市青葉区一番町3-1-16 / JR仙台駅徒歩約11分)

参加料(税込)：

当協会会員 全3回12,000円、各回5,000円
一般 全3回27,000円、各回10,000円

定員：各回30名(先着順)

全3回／各回終了後、石井先生を交えて懇親会を行います(会費4,000円程度)

【お問い合わせ】 株式会社日本医療企画 東北支社 TEL:022-281-8536(担当:三浦・浅石)

老健・特養の栄養経営士 必見!

奮ってご参加ください!

介護報酬改定特別企画

「排便コントロールで働き方改革」プロジェクト
参加施設募集!

主催：株式会社日本医療企画

協力：ネスレ日本株式会社 ネスレ ヘルスサイエンスカンパニー

プレバイオティクスで良好な排泄コントロールを目指し、
トータルコストの低減につなげよう!

栄養ケアに注目が集まった2018年の介護報酬改定を受け、日本医療企画ではPHGG(グァーガム酵素分解物)配合流動食を使い、良好な排便コントロールを目指す取り組みに参加する施設を募集しています。すでに取り組みを実施している施設では良好な結果が出ており、今回はそれを老健・特養の皆様に広く募集し、検証するものです。

参加施設はPHGG配合流動食を対象の入所者様にご利用いただくとともに、利用する前後の便性状やおむつ使用量、排泄ケアにかかった時間などを排便日誌に記録します。各施設での記録は提出後に集計され、トータルコストの削減にどれだけ効果があったかが日本医療企画が発行する雑誌で発表されます。

排泄ケア時間の低減やおむつ使用量等の排泄に関わるコストの削減、そしてなにより入所者のおなかの健康とQOL向上が見込め、老健・特養で働く栄養経営士なら参加する意義のあるプロジェクトです。栄養ケア業務のステップアップ、施設のコストマネジメントのために、ぜひご参加ください。

プロジェクトスケジュール

6月～
プロジェクト説明
切替前のデータ収集7～8月
PHGG製品へ切替
データ収集(4週間)8月31日
データ提出
アンケート回答締切

参 加 資 格	経腸栄養の入所者様がいらっしゃる老健・特養にお勤めの管理栄養士の方
企 画 概 要	経腸栄養の入所者様に対し PHGG 配合流動食をご利用いただき、便性状やおむつ使用量、排泄ケアに要した時間などの変化を記録。データを日本医療企画で集計し、結果を雑誌誌面にて紹介します。 ※入所者様の個人情報については、ご本人の承諾がない限り第三者に開示することはありません
応 募 ・ 問 い 合 わ せ 先	★具体的な内容は参加希望の方に追って案内されます。まずは下記までご連絡を！ E-mail：rest@jmp.co.jp 株式会社日本医療企画 TEL：03-3256-2862（担当：金久保） ※募集には限りがございますので、お早めにお申し込みください

日本栄養経営実践協会 情報掲示板

セミナー情報

実践! 模擬NSTカンファレンスセミナー

医師や看護師が同席するバーチャルなNSTカンファレンスを設定し、実際の症例をもとに参加者が自分で考え、栄養管理計画を立案し、多職種とディスカッションするセミナーです。

6/3は「認知症と栄養ケア」をテーマに開催します。

○日 程 6月3日(日)13:30～16:30

○講 師 阿部咲子(ファシリテーター/栄養経営士、介護老人保健施設スカイ)

蓮村友樹久(医師、愛全診療所所長)

平田祐子(看護師、介護老人保健施設都築ハートフルステーション 認知症ケア上級専門士)

○会 場 ニッテン神田ビル(旧もとみやビル)3階セミナールーム
(東京都千代田区神田東松下17)

○受講料 【当協会会員】9,000円
【一 般】12,000円

○お問い合わせ 株式会社日本医療企画
TEL:03-3256-2885(担当:平山・原田)

セミナー情報

谷口英喜先生に学ぶ 実践! 栄養管理講座 Season3

全3回で実施されるセミナーは、1日で基礎編～応用編まで講義を行い、基礎編を受講された方はインターネットの動画で基礎編を何度も復習できる仕組みになっています。応用編のみの参加も可能で、より難易度がアップした症例から知識・スキルを学べます。

○日 程 第2回 6月23日(土)「周術期の栄養管理」

第3回 7月28日(土)「がん患者の栄養管理」

各回 基礎編:10:00～12:30 応用編:13:10～17:30

○講 師 谷口英喜(麻酔科医、社会福祉法人恩賜財団済生会
横浜市東部病院患者支援センター長・栄養部部長)

○会 場 ニッテン神田ビル(旧もとみやビル)3階セミナールーム

○受講料 【当協会会員】
基礎編+応用編 1回8,000円/応用編 1回6,000円、基礎編+応用編 全3回20,000円/応用編 全3回15,000円

○お問い合わせ 株式会社日本医療企画
TEL:03-3256-2885(担当:平山・原田)